

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)11月25日 No. 1143

目次

ロシア乗用車市場の現状.....	坂口 泉 1
旧ソ連・東欧貿易商況(1999年9月).....	13
キーパーソン ウクライナ大統領が再選.....	15
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	15

ロシア乗用車市場の現状

はじめに 1998年前半、ロシアの国内乗用車メーカーは、いずれも販売不振に苦しんでいた。これは主として、ルーブルの対ドル・レートが高値で安定していたため、国産乗用車と輸入乗用車との間の価格差が縮まり、国産車に対する需要が低下したことに起因していた。もっとも事態が深刻だったのは、ロシア最大の乗用車メーカー「AvtoVAZ(ヴォルガ自動車工場)」で、1998年7月には約10万台(1998年の同社の乗用車生産量は約60万台)もの在庫を抱えてしまっていた。しかし、1998年8月の経済危機は、ロシアの乗用車メーカーを苦境から救ってくれた。それは以下のような理由による。

ルーブルが大幅に切り下がったにもかかわらず、国産メーカーは乗用車のルーブル建て価格を極力値上げしないという方針をとった。このため、国産乗用車のドル建て価格は経済危機以前の半分以下の水準となった。当然、輸入乗用車との価格差は再び広がり、国産乗用車の売れ行きが回復したのである。その他、一般市民の間で、将来への不安感から資産価値の高い耐久消費財への購買意欲が高まったという要素も見逃せない。

ただ、このようなルーブル切り下げ効果にも、最近、やや陰りが見えてきている。1999年7月頃より、ロシア最大の乗用車メーカーであるAvtoVAZの乗用車(ドル建てで言えば2,500~5,000ドルの価格帯の車が主力)を中心に、国産車の売れ行きが明らかに鈍化してきているのである。たとえば、AvtoVAZではその頃より在庫数が再び急増し、現在までに(1999年11月中旬)数回、工場出荷価格の値下げを実施することを余儀なくされている。

ロシアの一般市民は元来軽乗用車をあまり好まないといわれているにもかかわらず、1999年に入り小売り価格1,500ドル程度といわれる軽乗用車「オカ」の生産が急増していることからわかるとおり、経済危機以降、一般市民の(ドル建てで見た場合の)購買力は予想以上に低下している(あるいは購買に慎重になっている)ようで、もはや多少の割安感だけでは